

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700350		
法人名	株式会社 一条		
事業所名	グループホームほろむい二号館 (ゆたか荘)		
所在地	岩見沢市幌向北2条1丁目611-109		
自己評価作成日	平成26年9月19日	評価結果市町村受理日	平成26年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心して暮らすということ」「自分らしく生きるということ」という施設理念に基づきご家族様にも協力して頂きながら支援をしている。誕生会、食事会、外出行事等にはご家族様への参加も呼びかけ思い出に残るような生活づくりの提供を心がけている。入居後の受診先についてはご本人様、ご家族様の希望・要望を踏まえながら対応をしている。グループホームにて受診の付添い、送迎を行い馴染みの医療機関への利用を継続し疾患に対する不安感が軽減でき安心して過ごして頂ける様、努めている。正看護師を配置し医療機関との連携を図りながら看取りについての相談、実施を行っている。町内会に加入し花壇の整備、清掃活動、地域のお祭り等には積極的に参加している。交流を通じ認知症への理解を深めて頂いている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0175700350-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 10 月 1 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な全体会議・ユニット会議において、施設理念を中心に考え、新しい職員の方にもオリエンテーションの中で理念について理解できる様、随時、説明している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、定期的な草刈りや花壇の手入れに率先して参加し、地域の方との交流を図っている。また、避難訓練時においては参加をして頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症についての理解や定期的に町内会向けにお便りを発行する事により、ホームでの活動の理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に根ざしたグループホームのあり方や災害時等の協力体制等を市関係者や町内会の役員の方にもご出席頂き、出された意見を実践している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録やグループホームのお便りを届けたりと、こまめに顔を出し、その都度、運営上の疑問点や問題点などを話をさせて頂き、市との繋がりに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム長会議・ユニット会議で随時、身体拘束を行わないケアを話し合い、全職員が身体拘束をしないケアをマニュアルを基にし話し合い、理解したうえで実行している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、ホーム長会議・ユニット会議等で随時話し合いをしている。常日頃から虐待行為につながらないように、口頭ではあるが周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員を中心に内部研修の機会や外部研修に参加し、ユニット会議等で職員全員に理解が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ分かりやすく説明し、疑問点を話し合いご本人様やご家族様に理解・納得して頂いている。その後の疑問点についても随時、対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常より入居者様、ご家族様等と職員が気兼ねなく話せる雰囲気を作り、直接、意見・不満・苦情を伝えられる関係作りをしている。また、伝えられた内容を検討・改善策を話し合い反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より代表者や管理者が現場と関わり、職員と気軽に話せる環境作りを心がけている。ホーム長会議やユニット会議にて意見をもらい、現場に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員にシフトの希望をとり、それを基に代表者が作成している。また、日常より職員とコミュニケーションをとり、働きやすい環境作りを話し合い改善出来る様、心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修・講習の情報があれば、随時、受講している。そこで受講した内容を各ユニット会議にて報告会を行い、個々のレベルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事により、他事業所との情報交換や交流を行っている。また、定期的に他事業所を訪問し情報交換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談やグループホームの様子を見学して頂き十分に話しを伺い入居についての説明をしている。ご本人様、ご家族様より心配な事柄、要望を聞き取りながら支援できる様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様、入居前ケアマネージャー等から情報を聞き取り、安心して頂ける様、十分な話し合いと説明を行い、良好な関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の要望、提供のあった情報より困っている事、支援を必要とする事柄を把握している。支援内容の説明、話し合いを行いサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様本意を心がけながらできる事、できない事を把握、見極めて声を掛け合い支え合う関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子や体調、受診した時の結果をご家族様にお伝えし情報の共有をしている。また、年に2回の交流会、外出行事等にも参加して頂き車イス介助、食事介助もして頂いている。共にご本人様を支える関係づくりをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会、外出や外泊を楽しみにしている事を伝えお盆やお正月等、機会をもうけて頂いている。また、ご友人、知人の方の面会もあり落ち着いた雰囲気でご過ごす事の出来る様、環境作りに配慮している、。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前、午後の間食の時間には職員も間に入り入居者様が楽しく会話出来る様、支援している。意思の疎通が難しい入居者様には返答しやすいような声かけに留意している。居室で過ごされるのを好まれる入居者様に対しては定期的に訪室しコミュニケーションをとる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	受診や外出時にお会いした時は現在の様子を伺い、グループホームの現況をお伝えしている。これまでの関係を大切にしながら必要時には相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中、または、ご本人様、ご家族様との会話の中から希望、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、ケアマネージャー、かかりつけの医療機関より情報提供をして頂き職員間で情報の共有、把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を経過表にどのように過ごされているか、体調に変化はないか細かく記録し、職員間での情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心としユニット職員間で入居者様の生活状況、心身の状態、ご本人様とご家族様の希望、担当医の意見も伺いながら一人一人の現状に反映した計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人様の生活の様子、行動の変化、訴え等、細かく記録している。入居前の状態もご家族様に確認しながら支援を行い計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意向により通院先の変更や通院から往診への変更の連絡調整をしている。また、ご家族様の来荘が困難な方については衣類や寝具等の購入をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し地域住民の方々と一緒に町内清掃、花壇の整備、地域のお祭りにも参加させて頂いている。また、運営推進会議を通じ町内の方との災害時の協力体制を構築中である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームのかかりつけ医療機関もあるがご本人様、ご家族様の希望に添い対応している。受診が困難となった入居者様についてはご家族様と相談し病院の移行や往診への変更をDr.に相談している。身体状況に合わせ適切な医療を受けられる様、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所全体で正看護師2人、准看護師3人が勤務している。朝のミーティングにて状態報告、状況の把握に努めている。体調不良時には報告、看護師にて処置、医療機関への連携をとっている。往診時には状態報告、服薬についての相談等もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者より介護サマリーの提供を行い正確な情報提供に努めている。ケアマネ、職員が面会に行った際には担当看護師より状態を聞いている。ご家族様、医療機関にDr.より話のある際には同席させて頂きたい事をお願いし退院後の支援が円滑に出来る様、努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応、看取りについての説明をしている。ご本人様、ご家族様の意向を踏まえながら医療機関に相談し協力を仰ぎご本人様にとって最適と思われる方向性で支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制、入居者様の応急処置など管理者を中心に職員間で確認している。急変時に備え危機感を持ち職務についている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間は職員が一人となる為、年に2回の夜間・火災想定での避難訓練を消防機関の立会いのもと行っている。訓練時には町内の方、市役所の方にも声をかけ見学に来て頂いている。訓練への参加、災害時の協力体制については構築中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーに配慮し一人一人の状態に合わせた声かけをしている。疾患や排泄等に関する相談等は、居室にて話しを伺う様、配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より入居者様一人一人の希望、要望が把握できる様に努めている。買い物や外出行事の際には希望に添う様な場所を考慮し好みの物を購入して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・臥床時間、食事の時間等、ご本人様の希望に合わせて過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、受診時の服装はご自身で選んで頂き必要に応じて支援、声かけをしている。女性の入居者様の中には毎日化粧をされる方もおりご家族様への化粧品の購入依頼や職員と買い物に行かれた際に購入できる様、支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の際には職員と一緒におしぼりたたみやテーブル拭きをして頂いている。また、月に1度は手作りおやつを設け好みの物を調理し、食べて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500kcalを目安に食事を提供している。嚥下機能の低下が見られる方の水分にはとろみをつけミキサー食やきざみ食を提供している。ベッド上で過ごす時間が多い方には居室に1日の水分・食事摂取量、バイタルを記載した表を置き状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアをしている。就寝前には義歯を洗浄剤につけ清潔な状態で使用して頂ける様、支援をしている。自身で行ってもらいが不十分な方や支援が必要な方には声かけ、介助にて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけ、トイレ誘導しトイレで排泄して頂ける様、支援している。すぐに紙パンツを使用するのではなく布パンツにパットを着用する様心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の適度な歩行、体操を行い食物繊維を含んだ食事の提供をしている。食事時間以外でも午前と午後にお茶の時間を設け水分摂取をうながしている。また、排便難が見られる入居者様は、かかりつけの医療機関に相談し下剤等で排便コントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回の入浴の機会を提供し要望があれば都度、対応している。受診、外出の前日には入浴をうながしている。夕食後の入浴は勤務体制により検討が必要な状況である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、寝具類を調整し安眠に繋げている。寝つけない方、不安感のある方には温かい飲み物をお勧めし、話を傾聴し安心して頂ける様な対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員2人にて服用している薬の数、朝・昼・夕・就寝薬の確認をしている。服用の際には飲み込んでいるか必ず確認している。また、服薬一覧表を掲示し一人一人の薬が間違っていないか確認している。薬が変更された時は、変更になる日付、内容を掲示し把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出行事、買い物ツアー等の機会を設け楽しみ事や嗜好品が購入できる様、支援をしている。毎月のおやつ作りでは好みのメニューも取り入れてできる事、困難な事を見極めながらお手伝いして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調確認しながら散歩、買い物、外食、外出行事の機会を設け参加して頂いている。年に2回、ご家族様にも参加してもらい一緒に食事を楽しむ時間を持って頂いている。今後も継続していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族様に確認、ご了承のもと自己管理して頂いている方もいる。職員が付き添い施設内の自動販売機や近隣のお店で買い物をして頂いている。外出や買い物の際には、お預かりしているお小遣を持参し好みの物を購入できる様、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内に電話を設置している入居者様もおり自身で電話をご家族様、ご友人の方にかけている方もいる。希望があれば随時、グループホームの電話も使用して頂いている。また、入居者様にて、ご家族様に暑中見舞いのハガキを送り、ご家族様も喜ばれている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダ付近にソファを設置し外の風景を楽しみながら会話ができる雰囲気づくりをしている。共有空間は四季折々の飾りつけ作りを入居者様にも手伝ってもらい季節感を楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には食卓テーブルとイス、ソファを設置している。ソファで横になり休まれる方、テレビを見ながら会話を楽しまれる方と各々自由に過ごせる環境作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち物については使い慣れた物をお持ち頂く様説明している。使用していた茶碗、箸、湯呑等の食器類や写真、使い慣れた布団をお持ち頂き安心して、落ち着ける場所となる様に居室作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札、トイレの場所も目につくように表示し建物内部での混乱が軽減できる様、支援をしている。就寝薬等を服薬されている方の中には歩行時にフラツキが見られる方もおり状態を確認しながらポータブルトイレを設置して使用して頂いている。心身の状態の把握を行い安全に生活を送れる様、配慮している。		